

寄贈作品

作家名 今村桂山(いまむら・けいざん)
作品名 竹里館(ちくりかん)
制作年 2012(平成 24)年
寸法 166.5×91.3cm
形態 額装、アクリル付
技法 紙、墨
出品歴 第 44 回日展(2012 年)・文部科学大臣賞

作品の評価

今村桂山は 1938 年福井市生まれの書家。18 歳から書道をはじめ、20 歳で木村知石(ちせき)に師事。21 歳で日展初入選、41 歳で特選受賞。2008 年には本県在住作家として初の日展評議員になり、現在(2022 年)は特別会員。審査員は 5 度務めた。日本書芸院副理事長を経て現在顧問。読売書法会参事、日展福井県作家会会長、書法研究五華会会長。2000 年に藍綬褒章、2008 年に福井県文化賞。

本作は、2012 年 74 歳で、第 44 回日展・文部科学大臣賞を受賞した、作家の代表作となる 1 点。唐時代の詩人王維(おうい)の五言絶句「竹里館」を単体書きの 20 字にまとめた。余白の美を際立たせる抑制の利いた線、渴筆と潤筆の対比がもたらす奥行きと墨色の多様性には「書は黒一色にあらず。絵画のごとき色彩感と遠近感を生みだせる」という師木村知石の教えも息づいている。

王維「竹里館」原文:独坐幽篁裏／弹琴復長嘯／深林人不知／明月来相照

現代語訳:竹やぶの中に一人で座る／琴を弾き、声を伸ばして朗詠する／深い竹林の中にいる私に誰も気づかない／明るい月だけがやってきて私を照らす

王維は中国、唐代の詩人、画家。李白、杜甫に次ぐ盛唐期の大詩人で、仏教信者であったために、詩仏と称される。自然詩の第一人者とされ、客観的で静寂な叙景に優れる。竹里館は竹林の中の建物の名。「輞川(もうせん)二十景」のうちの一つ。「輞川」は長安の南郊にあった王維の別荘で、「輞川荘」と名づけられた。詩友の裴迪(はいてき)と唱和した作品を集めた「輞川集」に収められている。夏目漱石は、『草枕』の中でこの詩を引用し、「只二十字のうちに優に別乾坤(べつけんこん／世俗とかけはなれた世界。別天地。別世界)を建立している」と評している。

獨生逐筆舞神吟

清心嘯月潭林不

初開月未相照

慧

